



2016年3月期 第2四半期

決算補足説明資料

2015年11月6日

アニコム ホールディングス株式会社

(証券コード：8715)

会社名	アニコム ホールディングス株式会社 (Anicom Holdings,Inc.)
事業内容	損害保険業 (ペット保険)、動物病院支援事業 等
所在地	東京都新宿区西新宿 8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階
設立年月日	2000年7月5日
代表者	代表取締役 小森 伸昭
資本金	43億7千万円 (2015年9月末日 現在)
連結従業員数	627名 (うち、獣医師 100名。いずれも2015年9月末日 現在。契約社員含む)
グループ会社	アニコム損害保険 (株)、アニコム パフェ (株)、アニコム フロンティア (株)、 アニコム先進医療研究所 (株) (旧: 日本どうぶつ先進医療研究所 (株))、 アニコム キャピタル (株)

I. 予防型保険会社としての取組み	4
II. 2016年3月期 業績修正内容	9
III. 2016年3月期2Q 決算概要	14

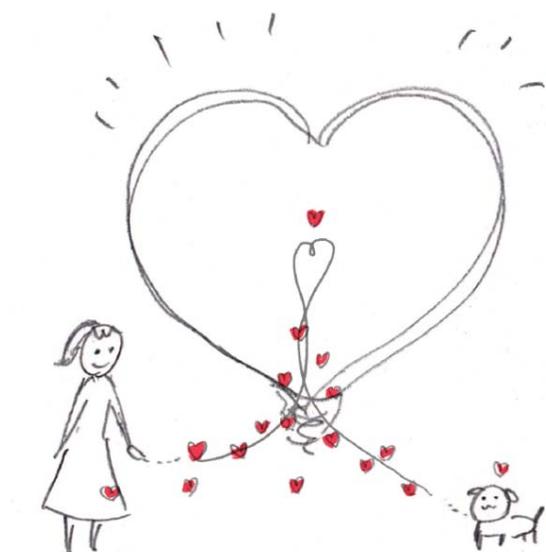
I. 予防型保険会社としての取組み

1. 私たちのミッション

どうぶつの健康寿命延伸を支え、彼らがもたらす『心の発電力』を高めます

現代社会において、わたしたち人間と共に暮らすどうぶつは『家族の一員』であることはもちろん、
となりに寄り添うだけで心の豊かさをもたらし、明日への大きな活力を与えてくれる存在となっています。

それはまさに、わたしたち人間にとって『心の発電所』といえる存在です。



きみが、心の発電所。

アニコムグループでは、家族の一員であり心の発電所でもあるどうぶつがケガや病気をせず、
長く健康に幸せに暮らせる社会を創りあげることで、わたしたち人間に長く活力を与え、
社会の発展に貢献するものであると捉え、すべての命の幸せを追求してまいります。

2. 健康診断と正しい生活習慣の提案

定期健康診断と正しい生活習慣の融合により、どうぶつと人間双方の健康長寿社会の実現を目指します

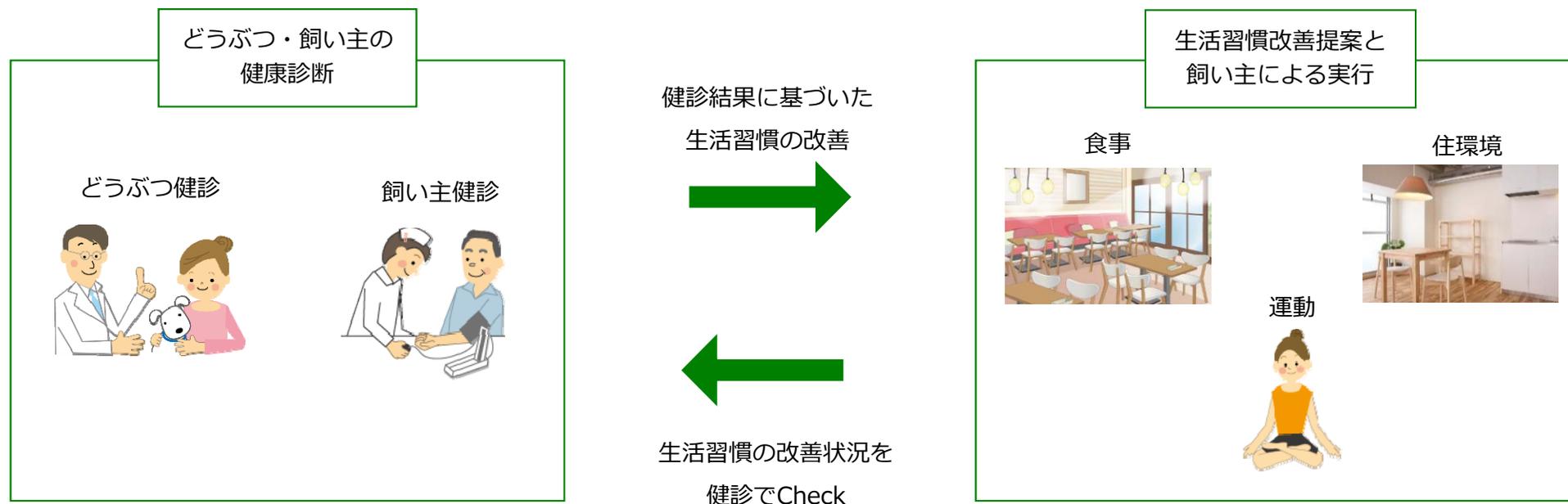
飼育環境の変化に伴いどうぶつにも生活習慣病が広がるなか、生活習慣に起因する疾病をはじめとして、どうぶつの疾病を予防するためには人間と同様に早期発見の仕組みが肝要であり、そのためには健康診断が重要な役割を果たします。

また、どうぶつの生活習慣は飼い主が決定するため、どうぶつのみならず飼い主自身も健康診断を行うことが重要です。

そして、どうぶつと人間双方の健康診断結果に基づき、両者の生活習慣改善に向けたサービスを飼い主に対して促す仕組みを構築し、

『健康診断 → 生活習慣改善提案 と（飼い主による）実行 → 健康診断』

をくり返すことで、どうぶつと人間双方の健康長寿社会の実現につながる仕組みを構築してまいります。



3. 具体的な取組み – ① 人間と動物の総合ヘルスケアサービス (双方の健康診断事業)

どうぶつの健康は、飼い主の健康から

飼育どうぶつにも生活習慣病が増加傾向にあるなか、どうぶつにとって食事・運動・住まい等の生活習慣は飼い主から与えられるものであり、自ら設計・決定することはできません。すなわち、飼育どうぶつは自らの生活習慣を悪化させることも改善させることもできません。

どうぶつの生活習慣を決定するのは飼い主です。

飼い主の生活習慣によってどうぶつの生活習慣ひいては生活習慣病の発症率も左右されることから、どうぶつのみならず飼い主の定期健康診断を行う機会を提供することで、1頭でも多くのどうぶつと1人でも多くの飼い主の涙を減らすことに繋げてまいります。



どうぶつと飼い主が、同じ場所で一緒に健診。一緒に改善。

3. 具体的な取組み – ② 正しい生活習慣の提供

様々な角度から、どうぶつ・飼い主双方に正しい生活習慣の提供を

どうぶつにとっても飼い主にとっても健康診断は非常に大事ではありますが、健康診断自体はあくまでも「Check」にすぎません。

健康寿命延伸にとって一番重要なことは「日々、正しい生活習慣を送ること」

どうぶつも飼い主も正しい生活習慣を送るために必須となる「食事」・「運動」・「住環境」等を、アニコムグループが保有する膨大なデータからディープ・ラーニング技術を活用して解析します。そして、その解析結果に基づいた「正しい食事」「正しい運動」「正しい住環境」等を、アニコムグループ内のみならず提携サービス事業者等と協業することで生活習慣の改善に資する物品やサービスを提供し、どうぶつ・飼い主双方が自主的かつ継続的に生活習慣の改善に取り組めるようモチベーション・マネジメントの機会を創出します。

食事



住環境



運動



リラクゼーション



Ⅱ. 2016年3月期 業績修正内容

1. 2016年3月期 業績修正概要

- **保有契約が堅調に推移**し、2016年3月期通期の **経常収益予想を上方修正** いたしました。
- 「どうぶつと人間双方の健康寿命延伸」を柱とする**中長期の成長に向けた積極的な投資**による事業費率の上昇に加え、正味損害率が想定以上に改善していることから**異常危険準備金戻入益が当初想定に比較し139百万円減少する見込み**ですが、**本業であるペット保険事業が堅調に推移**しているため、**経常利益予想は変更しておりません**。

経常収益	・新規契約/継続契約ともほぼ計画どおりに獲得が進んだ結果、 保有契約が順調に増加しており、下期も着実に契約獲得は進む ものと想定しています。
損害率	・2014年6月の保険料改定がほぼ通年で寄与したことによる損害率の低下に加え、予防に関する取組み強化等が奏功していることにより、 損害率が想定以上に改善 しており、 下期もその傾向は続く ものと想定しています。
事業費率 + その他経常費用	・中長期の成長戦略と位置付けている「どうぶつと人間双方の健康寿命延伸」に対するソリューションとしての健康診断事業やアニコム コンシェルジュをはじめとする商品・サービスの提供に関する 研究開発投資をハード・ソフト両面で積極的に実施 していることから、事業費率およびその他経常費用は当初想定よりも上昇を想定しております。
その他	・ 正味損害率が想定以上に改善 したことにより 異常危険準備金戻入益が想定より減少する見込み となり、 139百万円の減益要因 となりましたが、 ペット保険引受事業の実質的な損益を表す修正利益には影響ありません 。

【通期修正】

(単位：百万円)		経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想	(A)	25,600	2,100	1,446
今回発表予想	(B)	26,586	2,100	1,459
増減額 (B-A)		986	-	13
増減率		3.9%	-	0.9%
(参考) 2015年3月期実績 (C)		22,638	1,250	829
同 増減率		17.4%	67.9%	76.0%

損害率 (E/I)	事業費率 (既経過保険料ベース)	コバインド®・レオ (既経過保険料ベース)
61.0 %	30.9 %	91.9 %
59.3 %	32.4 %	91.7 %
1.7 pt	▲1.5 pt	0.2 pt

2. 健康寿命延伸に向けた主な研究開発投資

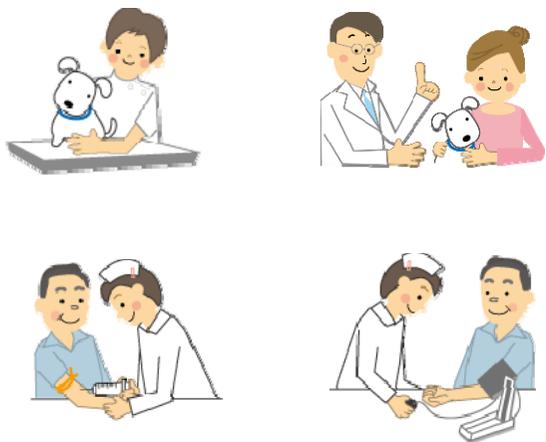
どうぶつと人間双方の健康長寿社会の実現に向け、生活習慣を改善する投資を行います

どうぶつと人間双方の健康長寿社会を実現させるためには、健康診断という「Check」と、食事・運動等の「Do」をサイクルさせることが肝要です。

そこでアニコムグループでは、「Check」である健康診断と「Do」である各サービスを1つでも多く提供できるように投資を進め、どうぶつと人間双方の健康長寿社会を実現させる仕組みを整えることで、中長期的にはペット保険に次ぐ収益の柱となるよう取り組んでまいります。

健康診断への投資

どうぶつと人間、双方の健康診断



どうぶつ・飼い主ともに正しい生活習慣を送れていることを確認するためには、定期的な健康診断が必要不可欠です。
アニコムグループでは、人間の医師と協業することでその機会を提供するための投資を行ってまいります。



サービスへの投資

食事



運動



住環境



リラクゼーション



どうぶつ・飼い主の生活習慣改善には、食事・運動・住環境をはじめ、様々な角度から総合的に行うことが重要と考えます。
アニコムグループでは、各サービス事業者と協業することで、その機会を1つでも多く提供するための投資を行ってまいります。

3. 健康寿命延伸に向けた具体的な取組み（anico parkの展開）

どうぶつと人間双方の健康長寿社会の実現に向けた複合的施設として「anico park」（アニコパーク）を展開します

私たちを取り巻く環境は、すべての生命が調和することで成り立っています。anico parkでは、私たち人間や愛玩動物だけではなく、野生動物から腸内細菌に至るまで、様々ないのちについて学び、ふれあうことができる機会を提供いたします。

また、私たちが自分以外のいのちを守るためには自身が健康であることが必須です。人間もどうぶつも、健康を維持するためには定期的な健康診断と正しい生活習慣が有効であると考え、飼い主とどうぶつの健診ができるほか、ドッグヨガ教室など健康を促進する施設も展開してまいります。

その第一弾として、新宿区西新宿に「anico park 西新宿（仮称）」を2015年12月中旬にOPENする予定です。



かぞく健診	どうぶつの健康は飼い主の健康から。anico park では、どうぶつの健康診断だけでなく、飼い主の血管観察、肌年齢測定などを実施する予定です（どうぶつの健診はアニコム先進医療研究所(株)が、飼い主の測定はアニコムグループの提携先がそれぞれ実施）。
anico kitchen	厳選した旬の野菜・食材を使い、健康なココロとカラダを作るお手伝いをし、「どうぶつと一緒に食事を楽しむ」という幸せな時間を共有していただきます（アニコムグループの提携先が実施）。
anico fitness	バランスチェック、筋肉量チェック、肥満度チェック、運動能力テストなどを行うほか、ワンちゃんと飼い主と一緒に楽しめるドッグヨガ教室等さまざまなプログラムを開催します（アニコム パフェ(株)が実施）。
anico horse	いのちとの共生、ふれあいを伝える anico park の象徴です。馬とのふれあいを通じ、馬の魅力のみならず、いのちの調和の大切さをお伝えいたします（アニコムグループの提携先が実施）。
anico camp	太古の昔、人とどうぶつが焚き木を囲みながら共に夜を過ごしていたような非日常的な空間を味わっていただけます（アニコムグループの提携先が実施）。
anico house	「住むほどに健康に」をコンセプトに、家族とどうぶつのための理想の住まいを提案します。楽しく健康に暮らせる家づくりのアイデアや、アニコム獣医師が厳選したどうぶつ用グッズの展示などをぜひご覧ください（アニコム パフェ(株)が実施）。
アトラクション	アニコムグループが進めている研究の一部をご案内します。ディープラーニングを活用し、お客さまと似ている犬猫の品種の判定や、合成写真の作成等を予定しています（アニコムグループ各社で実施）。

4. 異常危険準備金戻入益の修正内容

① 繰入のルール : 収入保険料の3.2%が毎期費用計上される。

② 戻入のルール : 当期首残高を限度として、正味支払保険金÷正味収入保険料が50%を超える場合に、同比率が50%となる水準まで取崩す。

【修正の内容】

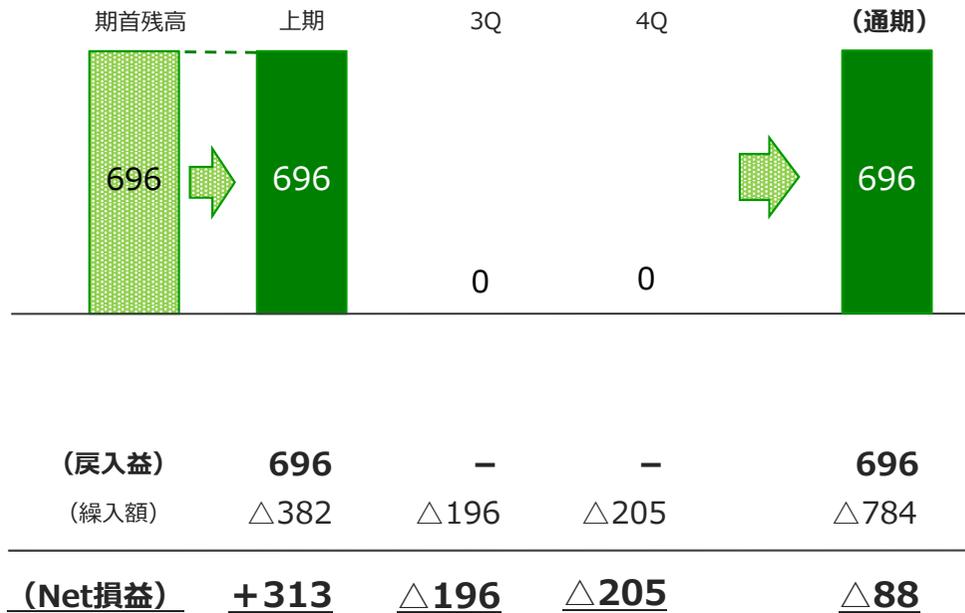
損害率の改善が進んだ結果、通期における②の比率が55.9%に改善する見込み（従前は58.5%想定）。

この結果、通期での戻入益は期首残高全額（696百万円）ではなく、557百万円となる見込み。

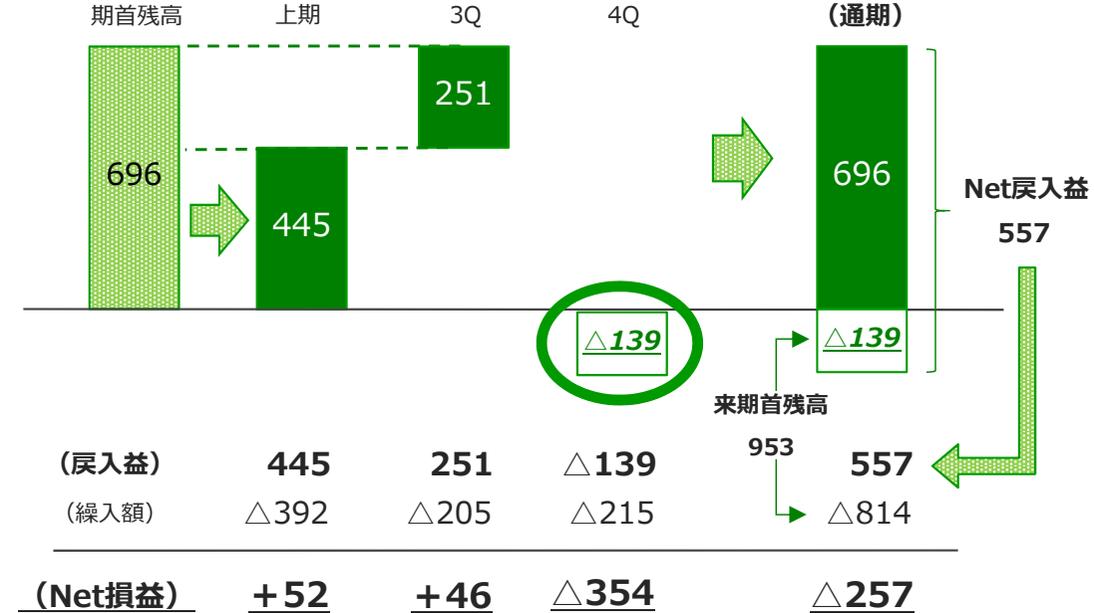
なお、戻入益計上はQごとに行うことから、3Qまでに期首残高全額を戻入益計上したうえ4Qで通期の比率に鑑みた戻入益に調整される。

【異常危険準備金期首残高のQごとの戻入益及び損益への影響】（単位：百万円）

■ 当初予算



■ 修正予算



Ⅲ. 2016年3月期 2Q 決算概要

1. 2016年3月期 2Q 決算ハイライト

業績

■ 経常収益 : 12,821 百万円 (前年同期は 10,662 百万円。 **20.2%増**)

(主な内訳) 保険引受収益: 12,234 百万円 (前年同期比 19.0% 増)

資産運用収益: 338 百万円 (前年同期比 50.6% 増)

■ 経常利益 : 1,327 百万円 (前年同期は 672 百万円。 **97.2%増**)

- ・ **保有契約数の順調な増加** (前年同期比 7.3%増) に加え、2014年6月に実施した **保険料改定効果** により保険引受収益が大きく増加。
- ・ **損害率は計画以上に改善が進み利益貢献**。ペット保険で生み出す利益を源泉に、健康寿命延伸に向けた投資を実行中。
- ・ 正味損害率 (W/P損害率) が当初想定よりも低く推移したことから、**異常危険準備金戻入益が想定より250百万円低額** となった。また、正味損害率が想定以上に改善していることから、**年度通期での戻入益は、当初想定696百万円ではなく557百万円** となる見込みである。差額の139百万円は当期繰入計上額とともに期末残高として計上され、翌期以降その損害率次第では戻入益計上されることとなる。

損害率 (E/I)

■ 第2四半期累計 : 61.3 % (前年同期は 67.8 %。 **6.5pt 改善**)

■ 第2四半期単独 : 60.6 % (前年同期は 68.9 %。 **8.3pt 改善**)

- ・ 2014年6月の保険料改定をはじめとする **損害率改善諸施策の効果発現が継続** していることにより、**大幅な改善を達成**。

事業費率

(既経過保険料ベース)

+

その他経常費用

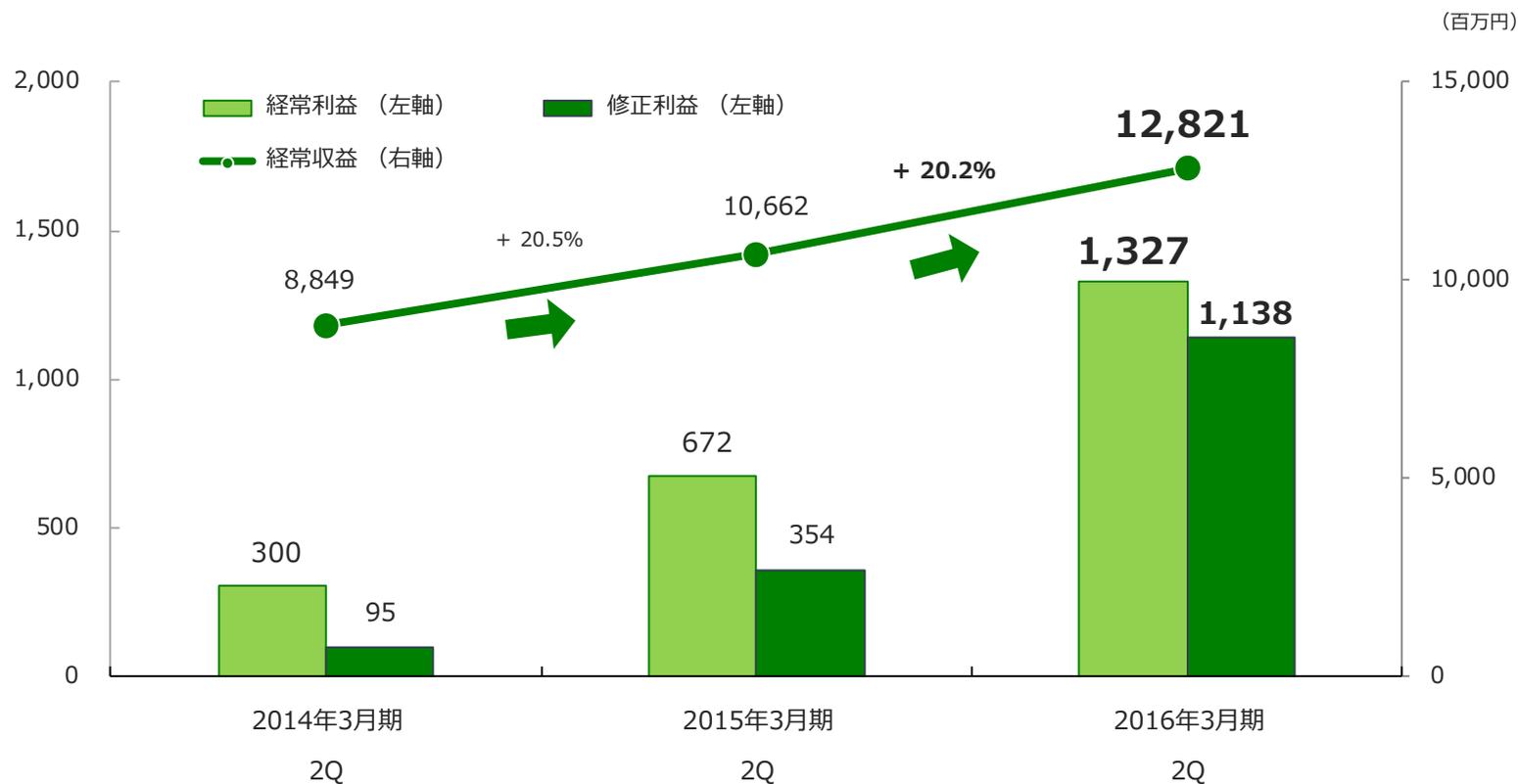
■ 第2四半期累計 : 28.9 % (前年同期は 28.5 %。 **0.4pt 上昇**)

■ 第2四半期単独 : 29.5 % (前年同期は 28.3 %。 **1.2pt 上昇**)

- ・ 将来のペット保険契約獲得の加速や損害率改善に向けた取り組みを加速させるべく、「どうぶつと人間双方の健康寿命延伸」を主眼とした **研究開発投資をソフト・ハード両面で積極的に行っているため、事業費率・その他経常費用は上昇傾向**。

2. 経常収益・経常利益・修正利益の四半期別推移

(注) 修正利益 : ペット保険引受事業による実質的な損益を表す当社グループ独自の指標。
 経常利益±異常危険準備金影響額±保険引受以外の営業費・一般管理費±
 資産運用収支±その他収支にて算出。



- ・ 保険引受収益増加に加え、資産運用収益の拡大や子会社の貢献により、**経常収益は前期比 20.5%増→20.2%増。**
- ・ ペット保険引受事業の実質的な利益である**修正利益も大きく増加。**
- ・ **経常利益も過去最高を計上。** 異常危険準備金戻入益が当初想定から250百万円少なくなり、当初の上期想定を同額押し下げたが、増益基調に変化なし。

3. 2016年3月期 2Q 連結決算概況

(百万円)

主な勘定科目の内容と増減理由

	15年3月期 2Q	16年3月期 2Q	対前期 増減率
経常収益	10,662	12,821	20.2 %
保険引受収益	10,279	12,234	19.0 %
資産運用収益	225	338	50.6 %
その他経常収益	158	247	56.3 %
経常費用	9,989	11,493	15.1 %
保険引受費用	7,545	8,406	11.4 %
(正味支払保険金)	(5,936)	(6,580)	10.8 %
(損害調査費)	(359)	(420)	17.1 %
(諸手数料及び集金費)	(599)	(749)	25.0 %
(支払備金繰入額)	(201)	(173)	△ 13.8 %
(責任準備金繰入額)	(448)	(482)	7.5 %
(うち未経過保険料)	(698)	(534)	△ 23.4 %
(うち異常危険準備金)	(△249)	(△52)	- %
資産運用費用	6	-	- %
営業費及び一般管理費	2,341	3,032	29.5 %
その他経常費用	96	54	△ 43.3 %
経常利益	672	1,327	97.2 %
四半期純利益	457	958	109.5 %

既経過保険料	9,580	11,699	22.1 %
発生保険金 (損害調査費含む)	6,497	7,175	10.4 %
E/I 損害率 ①	67.8 %	61.3 %	△ 6.5 pt
既経過保険料 [△] -入事業費率 ②	28.5 %	28.9 %	0.4 pt
ｺﾝﾊﾞｲﾄﾞ・ﾚｼﾞｵ(既経過保険料 [△] -入) ①+②	96.3 %	90.2 %	△ 6.1 pt

- ① 保険引受収益 (詳細は「4.経常収益のパラメータ」参照)
 - ・保有契約が前年同期比7.3%増加。
 - ・2014年6月に平均12%の保険料改定を行い、段階的に収益を底上げ。
- ② 資産運用収益
 - ・主に国内株式・国内REITにより安定的な運用収益を確保。
- ③ 正味支払保険金
 - ・保有契約数の増加に伴い保険金支払も増加するが、損害率改善施策等により、保険引受収益の増加率(19.0%)に比較し低い増加率で着地。
- ④ 損害調査費
 - ・人件費をはじめとした保険金査定部門の費用。支払件数に応じて増加。
- ⑤ 諸手数料及び集金費
 - ・主に代理店に対する手数料。保険引受収益の増加に伴って増加。
- ⑥ 支払備金繰入額
 - ・将来の保険金支払に備えるための繰入額。
 - ・支払備金(B/S) 期末残高-期首残高で算出。
 - ・③正味支払保険金と合算することで、発生保険金となる。
- ⑦ 未経過保険料繰入額
 - ・収入保険料のうち翌期以降に対応する保険料の繰り延べ。
 - ・繰入額は期末残高-期首残高で算出される。なお、その期における①保険引受収益のおおよそ35%-40%前後が期末残高となる。
 - ・①保険引受収益から未経過保険料繰入額を差し引くと既経過保険料(≒発生ベースの保険料)となる。
- ⑧ 異常危険準備金
 - ・制度化された積立であり、収入保険料の3.2%を毎期計上。
 - ・一方、当期首残高を限度額として「正味損害率が50%となる水準」まで取崩すこととなり、繰入額はそのNet金額が計上される。

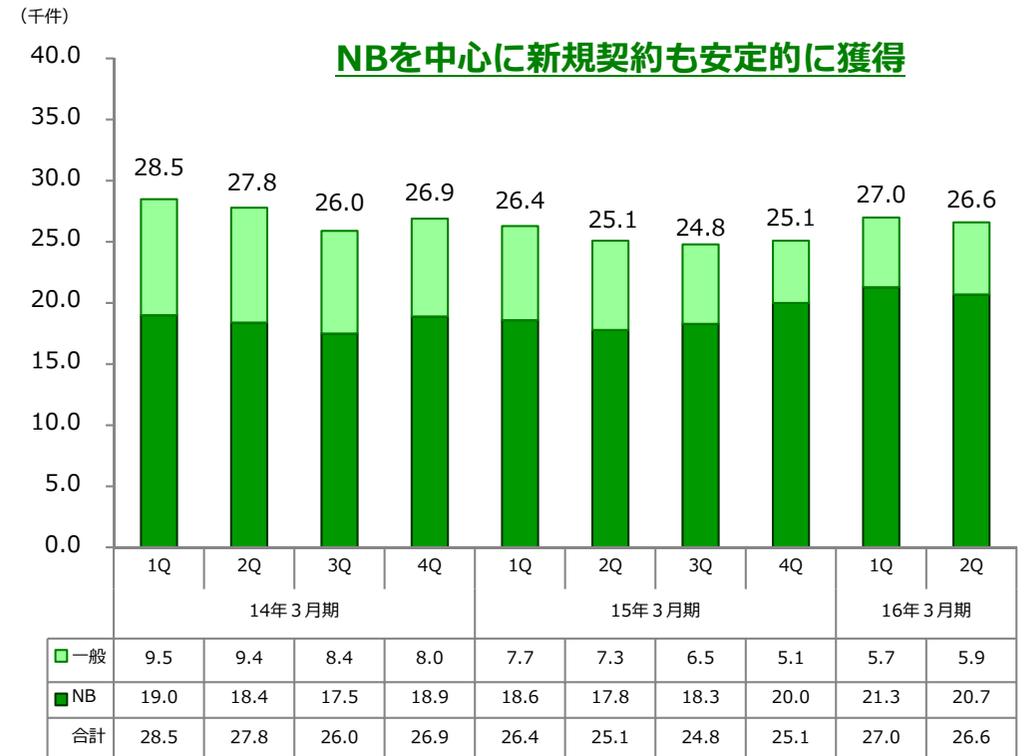
4. 経常収益のパラメータ (ペット保険保有契約件数/新規獲得件数の推移)

- ・ **新規契約獲得は順調に推移**。特にペットショップチャンネル経由の新規契約獲得数は、当初計画を7%程度上回っている。
- ・ **既存契約の継続率は88%前後で推移しており、順調な獲得が継続**。
- ・ 以上の結果、**保有契約数は順調に増加**。当期末には58万8千件で着地見込み。
- ・ 50%プランと70%プランの比率は、保有契約全体ではおおよそ2：1で50%プラン割合が多い。一方、新規契約では70%プランが5割超。

■ 保有契約件数の四半期推移



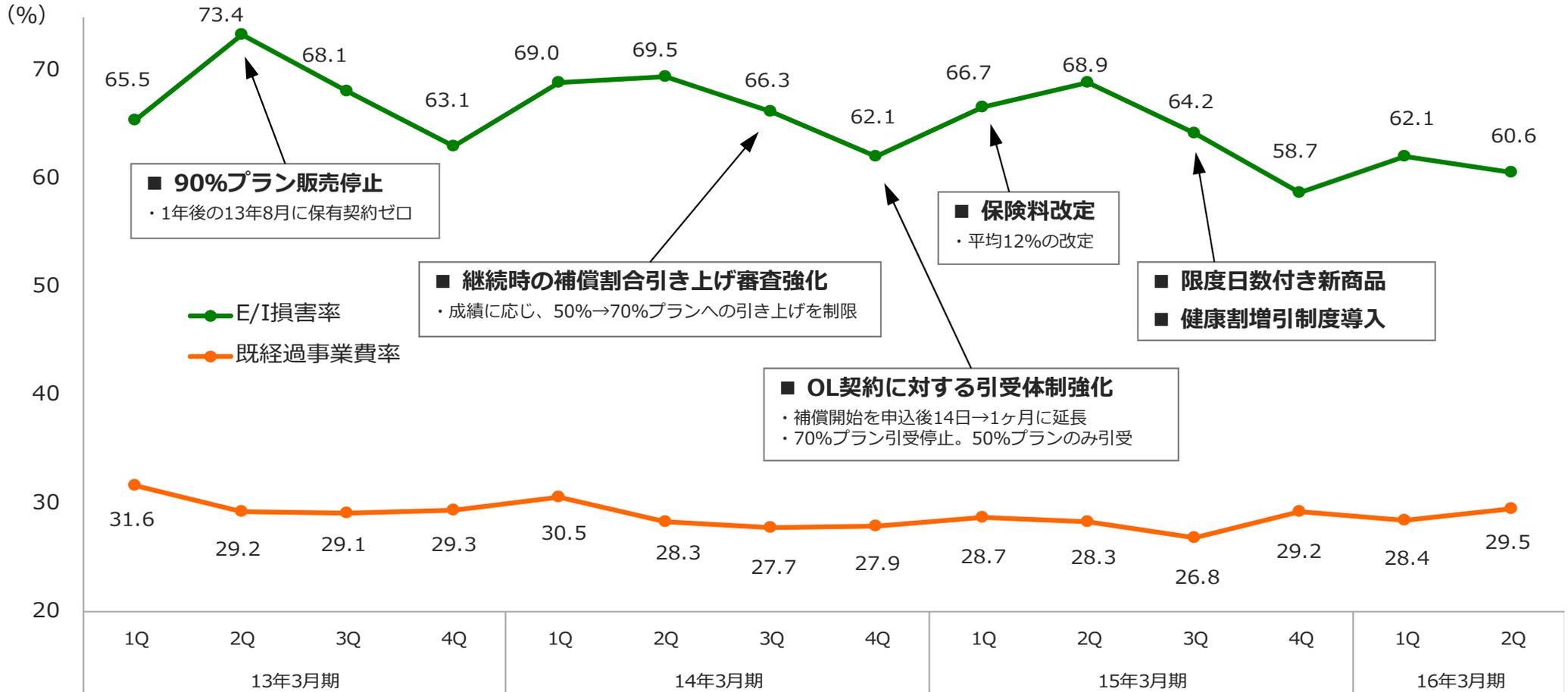
■ 新規契約獲得件数の四半期推移



※ NB：ペットショップチャンネル

5. 経常費用のパラメータ (損害率 (E/I)、既経過保険料ベース事業費率)

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。
 注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。



・**E/I損害率**は、動物病院の繁忙期に応じて1Q・2Qに上昇した後、3Q・4Qに通院頻度が減少することで改善する季節性を有する。また、損害率改善施策効果の発現により、14年3月期2Q以降**10四半期連続で対前年同期を下回っており**、今後も緩やかな改善の継続を見込む。

・**事業費率**は、損害率改善により得た利益を基礎に**新たな事業に投資していることから、緩やかな上昇を見込む。**

6. 連結貸借対照表 サマリー

(百万円)

主な勘定科目の内容と増減理由

	15年3月期	16年3月期 2Q	増減率
資産合計	22,337	23,736	6.3%
現金及び預貯金	4,217	4,051	△ 3.9%
有価証券	15,108	14,869	△ 1.6%
有形固定資産	250	761	203.8%
無形固定資産	566	625	10.5%
その他資産	1,945	3,017	55.1%
繰延税金資産	263	428	62.4%
貸倒引当金	△ 13	△ 18	-%
負債合計	13,066	13,773	5.4%
保険契約準備金	10,528	11,184	6.2%
うち支払備金	1,435	1,609	12.1%
うち責任準備金	9,093	9,575	5.3%
その他負債	2,411	2,416	0.2%
賞与引当金	103	142	37.7%
価格変動準備金	22	29	31.7%
純資産合計	9,270	9,962	7.5%
株主資本	9,272	10,286	10.9%
うち資本金	4,350	4,378	0.6%
うち資本剰余金	4,240	4,268	0.7%
うち利益剰余金	681	1,640	140.7%
うち自己株式	△ 0	△ 0	-%
その他有価証券評価差額金	△ 1	△ 333	-%
新株予約権	-	9	-%
負債・純資産合計	22,337	23,736	6.3%

① 有価証券

- ・ 主に国内株式・国内REIT・CRF等にて運用。

② 有形固定資産

- ・ 本社移転および健康診断事業施設にかかる固定資産の取得による増加。

③ その他資産

- ・ 本社移転や研究拠点増加に伴う敷金の増加に加え、研究開発投資・営業関連投資に係る前払費用等を計上。

④ 支払備金

- ・ 将来の保険金支払に備えて計上される未払金。
すでに請求を受けている①普通支払備金と、保険事故は発生しているものの未だ請求を受けていない②IBNR備金を計上。
- ・ 基本的に保有契約の増加に伴い保険金請求も増加するため増加傾向。

⑤ 責任準備金

- ・ 未経過保険料である①普通責任準備金(8,931百万円)と、異常災害に備えて引き当てる②異常危険準備金(643百万円)を計上。
- ・ 普通責任準備金は保有契約の増加に伴い増加する傾向であり、当該期における正味収入保険料のおおよそ35%~40%前後が残高として計上される傾向。

7. 連結キャッシュ・フロー サマリー

(百万円)

	15年3月期 2Q	16年3月期 2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,286	855
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,588	123
財務活動によるキャッシュ・フロー	9	55
現金及び現金同等物の増減額	△ 292	1,034
現金及び現金同等物の期首残高	1,301	1,567
現金及び現金同等物の期末残高	1,008	2,601

- ・ コンバインド・レシオの改善と保険契約の伸長が相俟って、安定した営業キャッシュ・フローを計上。
- ・ 運用資産への投資を進める一方で売却による回収も実行し、投資キャッシュ・フローをコントロール。
- ・ 財務キャッシュ・フローは新株予約権の行使。

APPENDIX

1. 主要経営パラメータ
2. グループの事業概要

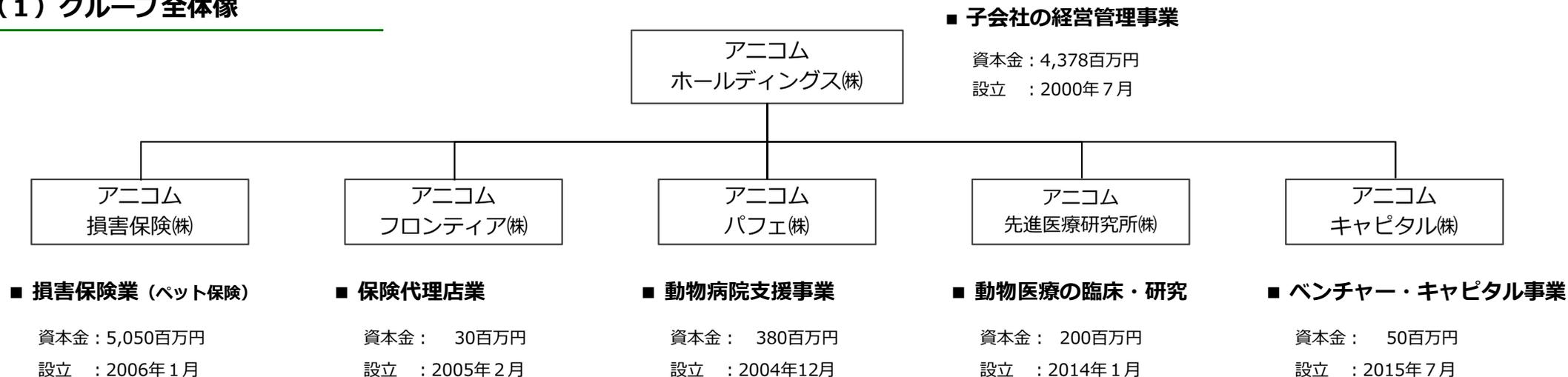
1. 主要経営パラメータ (アニコム損保(株) 単体)

	① 15年3月期 2Q累計	② 15年3月期末	16年3月期 2Q累計	②-① 前年同期比		②-① 対前期末		16年3月期末 (11月6日予想)
				件数	率	件数	率	
① 保有契約数	526,439 件	544,815 件	565,051 件	38,612 件	7.3 %	20,236 件	3.7 %	588,000 件
② 新規契約数	51,647 件	101,628 件	53,734 件	2,087 件	4.0 %	-	-	110,300 件
(うち新生児)	(36,549 件)	(75,007 件)	(42,040 件)	(5,491 件)	15.0 %	-	-	(84,000 件)
(うち一般)	(15,098 件)	(26,621 件)	(11,694 件)	(△3,404 件)	△22.5 %	-	-	(26,300 件)
③ 継続率	88.3 %	88.7 %	88.2 %	△0.1 pt	-	-	-	88.2 %
④ 保険金支払件数	1,250 千件	2,519 千件	1,327 千件	76 千件	6.1 %	-	-	2,735 千件
⑤ 対応動物病院数	5,630 病院	5,773 病院	5,848 病院	218 病院	3.9 %	75 病院	1.3 %	5,923 病院

	15年3月期 2Q累計	16年3月期 2Q累計	対前年同期増減	16年3月期 (11月6日予想)
① E/I 損害率	67.8 %	61.3 %	6.5 Pt 改善	59.3 %
② 既経過保険料ベース事業費率	28.5 %	28.9 %	0.4 Pt 上昇	32.4 %
③ コンバインド・レシオ (既経過保険料ベース)	96.3 %	90.2 %	6.1 Pt 改善	91.7 %
④ 単体ソルベンシー・マージン比率	292.9 %	268.5 %	△ 24.4 pt	280 %前後

2. グループの事業概要

(1) グループ全体像



(2) グループ沿革

2000年 4月	任意組合として anicom（どうぶつ健康促進クラブ）設立	2008年 1月	アニコム損保(株)がペット保険の販売を開始
2000年 7月	anicomから「どうぶつ健保」事務受託会社として(株)ビーエスピー設立 (2005年1月にアニコム インターナショナル(株)に、2008年6月に アニコム ホールディングス(株)に、それぞれ商号変更)	2008年 4月	アニコム損保(株)がペット保険の補償を開始
2004年12月	アニコム パフェ(株)設立	2009年11月	「家庭どうぶつ白書」発刊（以降、毎年発刊）
2005年 2月	アニコム フロンティア(株)設立	2010年 3月	アニコム ホールディングス(株)が東証マザーズ上場（証券コード：8715）
2006年 1月	保険会社設立準備のため、アニコムインシュランスプランニング(株)設立 (2007年12月にアニコム損害保険(株)に商号変更)	2014年 1月	日本どうぶつ先進医療研究所(株)（現「アニコム先進医療研究所(株)」）設立
2007年12月	アニコム損害保険(株)が損害保険業免許を取得 アニコム インターナショナル(株)が保険持株会社としての認可取得	2014年 6月	アニコム ホールディングス(株)が東証一部に市場変更
		2015年 7月	アニコム キャピタル(株)設立

2. グループの事業概要

(3) ペット保険商品の概要

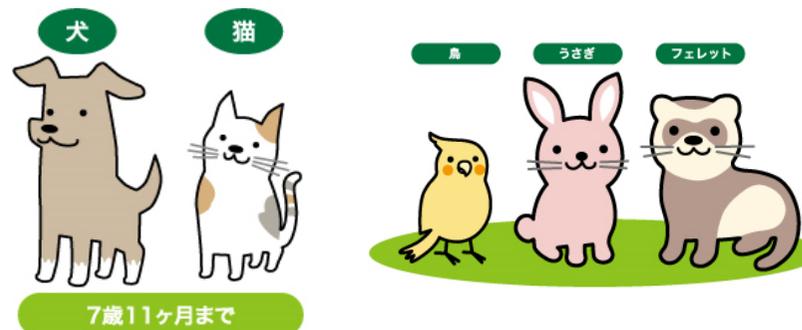
① 補償内容

どうぶつのケガ・病気に対し、保険の対象となる診療費の70%もしくは50%を、支払限度額の範囲内で保険金としてお支払いします。
(死亡補償ではありません)

	ふあみりい70%プラン 支払割合 70% 支払限度額と限度日数(回数)	ふあみりい50%プラン 支払割合 50% 支払限度額と限度日数(回数)
通院 入院	1日あたり最高 14,000円 まで ※1年間にご利用できる日数は 各20日まで です。	1日あたり最高 10,000円 まで ※1年間にご利用できる日数は 各20日まで です。
手術	1回あたり最高 140,000円 まで ※1年間にご利用できる回数は 2回まで です。	1回あたり最高 100,000円 まで ※1年間にご利用できる回数は 2回まで です。

② 対象となるどうぶつと年齢

- 新規にお申込みいただけるどうぶつは7歳11ヶ月までの健康体である犬・猫。
- ペットショップでお迎えになる場合は、犬・猫のほか、鳥・うさぎ・フェレットについてもお申し込み可能。



2. グループの事業概要

(4) 特長と競争優位の源泉

① 窓口精算システム

人間の健康保険と同様の窓口精算システムを採用し、契約者の利便性が高い仕組みを構築しております。

契約者の方には人間の健康保険証と同様の「どうぶつ健康保険証」を発行しております。この「どうぶつ健康保険証」をアニコム損保(株)と提携する動物病院の窓口で提示すればお支払いは自己負担額（保険金支払対象額の30% or 50%。ただし限度金額あり）のみとなり、その場で保険金の精算が完了します。



② 圧倒的な提携動物病院の数

ペット保険を取り扱っている同業他社でも同様の仕組みを採用している会社もありますが、その提携動物病院の数には圧倒的な差があります。

アニコム損保(株)では全国で5,848の動物病院施設と提携（2015年9月末時点）しており、保険金請求の約85%が窓口精算による請求であります。



全国 **5,848** 動物病院と提携

(※ 2015年9月末時点)

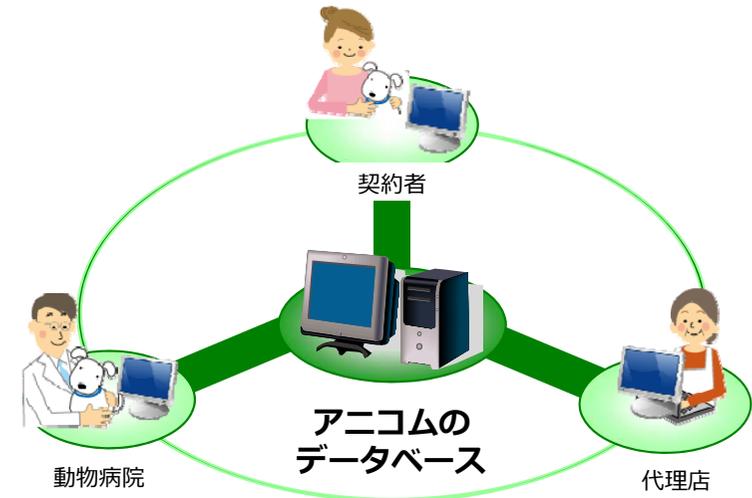
2. グループの事業概要

(4) 特長と競争優位の源泉

③ シームレスネットワーク

保険契約に関する情報を契約者・動物病院・代理店・アニコム損保間で即座に繋げるネットワークを構築しております。

保険金請求データのみならず契約データ等もネットワークで共有することにより各当事者の利便性の向上を図るとともに大幅なコストダウンを達成。事実上の参入障壁のひとつとなっております。



④ 多種多様なバックグラウンドを持つ社内の専門家人材

2015年9月末日現在、100名の獣医師がアニコムグループに所属しております。それぞれの獣医師は、大学院で研究を続け博士号を取得している者から、臨床現場で1次診療や2次診療、救急診療を経験している者まで、そのバックグラウンドは多種多様であります。

これら獣医師は、獣医療に関する研究・分析のほかペット保険の引受審査や支払調査を担当する者、動物病院の獣医師や契約者と対話する者等、「獣医師だからこそ」の信頼性が必要となる様々な場面で活躍しております。

また、獣医師のみならず人間の医師、医学博士、農学博士など幅広い専門家人材を活用し、予防型保険会社への歩を進めております。



本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しております。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。

お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部

東京都新宿区西新宿 8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階

URL : <http://www.anicom.co.jp/>

